

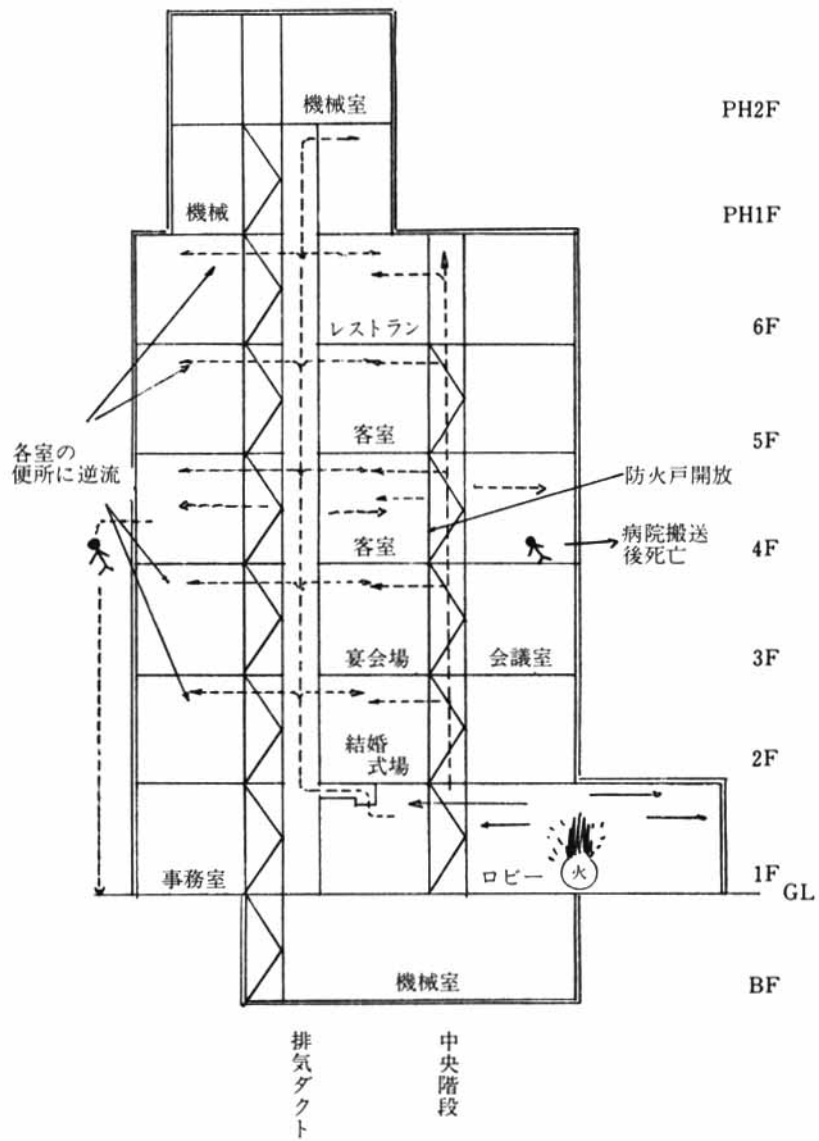
名 称 所 在	用 途 (令別表)	発 生 日 時 等	構 造 ・ 階 層 面 積	焼 損 程 度 (焼 損 面 積 延 面 積)	死 傷 者
釧 路 オリエンタルホテル 釧路市幸町 7-1	ホテル (5)イ	昭和48年6月18日	耐火 Ⅲ	全・半・部・小	死者 2名
		出火4時20分ころ 覚知4時22分 覚知別 報知電話 鎮火5時39分	建 1,473m ² 延 5,735m ²	830m ² (14%)	傷者 27名 (2)

I 火災概要								
① 概 要	<p>前日発生したM7.25という地震騒ぎが一応納まった釧路市でホテル火災が発生し、1階の一部を焼失しただけで鎮火したが、濃煙と避難誘導体制等の不備から、宿泊客2名が死亡し、27名が重軽症を負うという火災であった。</p>							
② 階 別 状 況	階	床面積	焼損床面積	用途(売場)	在館者	死 者	避難設備等	消防用設備等
	PH2	53.4m ²	m ²	機 械 室			屋内階段 2箇所 (B1F~6F) 屋外階段 1箇所 (2F~6F) 避難器具 1箇所 (なわ梯子)	消 内 自 非 放送 誘
	PH1	115.4		機 械 室				
	6	668.6		スカイレストラン				
	5	668.6		客室(洋式)	27			
	4	668.6		客室(和式)	26 (従業員1)	2(男)		
	3	668.6		宴会場,会議室	2 (従業員2)			
	2	668.6		結 婚 式 場 食堂(和・洋)				
	①	1,743.4	830	ロビー,事務室 大宴会場	3 (従業員3)			
	B1	480.4		従業員控室 機械室	2 (従業員2)			
合計	5,735.2	830		60 (従業員8)	2			
③ 出 火 場 所	(階, 室, 部位, 可燃物状況, 居室・非居室, 在・不在) 1階北東側売店付近から出火 ○売店には, 整理棚・ベニアの吊り戸・タバコのダンボール箱・商品等の可燃材が多量にあった。 ○出火当時売店は不在であった。					④ 出 火 原 因	不 明	

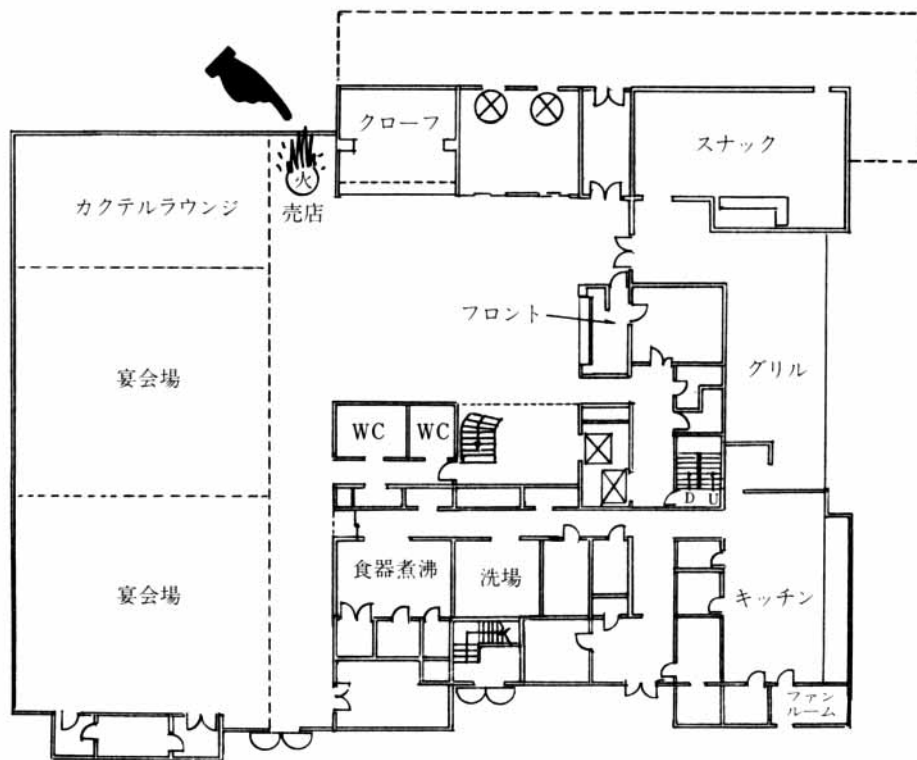
⑤ 火 災 の 延 焼 経 路 等	<p>(出火部位) (出火室の拡大) (他室への拡大)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;">1階北東 売店付近</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">売店内の整理棚, ダン ボール箱等に着火拡大 し, 天井へ燃え移る</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">隣接するカクテルラウンジ及びロビーへと延焼し, さらに防火区画のシャッターが開放されていたため ここより大宴会場へと拡大した</div> </div>	
	<p>1階北側売店付近から出火し, タバコのダンボール箱・整理棚・ベニアの吊り戸などに着火し, 天井へと拡大していき, 隣接するカクテルラウンジ, ロビー (床はPタイル, 天井はプラスターボード張り, 壁内装はプラスターボード張りに難燃クロスを張っている)へと延焼, さらには北側防火区画の手動シャッターが開放されていたため, ここより大宴会場へと延焼拡大していった。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 延焼拡大した主な理由 <ul style="list-style-type: none"> ○ 出火場所付近に多量の可燃物品が置かれていたため延焼が早かった。 ○ 1階北側防火区画のシャッターが開放されていたためここより延焼拡大した。 ○ 煙の伝播経路 <ul style="list-style-type: none"> ○ 1階中央階段を通して拡散し, 4階防火戸開放部より4階に充満し, さらに宿泊室が開放したままの出入口から客室に流入した。(客室の窓を破壊したため煙の流入を助長した。) ○ 1階防火区画のシャッターが開放されていたため, 濃煙が流入し, 天蓋・ダクトを通じ上昇塔屋から排煙しきれず, 2階から5階の便所, 浴室等に逆流して各室に流入した。 	
II 火災建物概要		
① 建 築	<p>着工・竣工又は主たる改築等 (竣工) 昭和43年 6 月 日 () 昭和 年 月 日</p>	
管 理 状 況	<p style="text-align: center;">② 縦 穴 の 状 況</p> <p>階 段 <input checked="" type="checkbox"/> ダクトスペース <input checked="" type="checkbox"/> エレベーター <input checked="" type="checkbox"/> パイプシャフト <input checked="" type="checkbox"/> エスカレータ <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/></p> <p>各縦穴とも防火的に区画されていたが, 中央階段の1階及び4階の防火戸が開放されていたため4階に煙が大量に流入した。</p>	<p style="text-align: center;">③ 防 火 管 理 状 況</p> <p>○防火管理者, 消防計画は届出されている。 ○消防計画は, すべて昼間における災害発生を前提としており, 夜間体制について規定されていない。 ○消防機関の指導のもとに自衛消防訓練・防火講話・防火映画等が行われている。</p>
	<p style="text-align: center;">④ 防 火 区 画 等</p> <p>1階北側防火区画の手動シャッターが設置されていたが, 開放されていたため火災拡大要因となった。</p>	<p style="text-align: center;">⑤ 消 防 用 設 備 等</p> <p>各設備の機能は良好であったが, 自動火災報知設備の受信機がベル停止の状態にしていた。</p>

III 火災後の行動						
① 発 見 状 況	<p>○発見者 (フロント係員) ○発見の動機 (火煙を発見する。) ○発見後の行動 (火災を確認し通報する。)</p> <hr/> <p>夜勤フロント係の男2名が勤務中、何気なく売店の方を見ると、大宴会場カクテルラウンジとの仕切吊戸の天井付近に火煙を発見したので、直ちに売店付近まで駆付け火災を確認した。 ※自動火災報知設備により火災が感知されていたが、過去数回の非火災報があったため、受信機をベル停止していたことから、ベルが鳴動せず宿直員等が覚知できなかった。</p>					
② 通 報 状 況	<p>通 報 した <input checked="" type="checkbox"/> (フロント係員が通報) 発見後約(1)分 しない <input type="checkbox"/></p> <hr/> <p>火災を発見したフロント係員は、火災確認後直ちにフロントから通報するとともに、3階の電話交換手に館内放送するように指示した。</p>					
③ 初 期 消 火 状 況	<table border="1"> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl;">消 火 し た</td> <td> 成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input type="checkbox"/> ○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> </td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;"> (理由又は状況) 火災発見後の急激な延焼拡大と濃煙のため、初期消火活動に従事できなかった。 </td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl;">消 火 し ない</td> <td> ○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/> </td> </tr> </table>	消 火 し た	成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input type="checkbox"/> ○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/>	(理由又は状況) 火災発見後の急激な延焼拡大と濃煙のため、初期消火活動に従事できなかった。	消 火 し ない	○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>
消 火 し た	成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input type="checkbox"/> ○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/>	(理由又は状況) 火災発見後の急激な延焼拡大と濃煙のため、初期消火活動に従事できなかった。				
消 火 し ない	○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>					
④ 消 火 活 動 概 要	<p>(消防上の支障・困難性等) ○現場到着時すでに正面玄関等より濃煙が噴出している状況であり、内部への進入は不可能の状態であった。 ○建物1階の3方向が張り出しており、他の1面(背面)には高圧線がかかっているという悪条件のため梯子自動車による救助は困難であった。(1名しか救助できず) ○1階屋根を利用し、2連・3連梯子によって窓よりの救出にあたり、5階部分は3連梯子に2連梯子を連結して救出にあたった。</p>					

	避難方法	避難上支障事項
⑤ 避難状況	<ul style="list-style-type: none"> ○階段を利用 <input checked="" type="checkbox"/> (10人) ○エレベーター、エスカレータ利用 <input type="checkbox"/> (人) ○避難器具を利用 <input checked="" type="checkbox"/> (2人) ○窓、開口部から直接地上へ <input checked="" type="checkbox"/> (6人) ○救助 <input checked="" type="checkbox"/> (42人) ○その他() <input type="checkbox"/> (人) 	<ul style="list-style-type: none"> ○無窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input checked="" type="checkbox"/> ((管理不良), 機能不良, 未設置) ○停電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input checked="" type="checkbox"/> (濃煙)
⑥ 死者の状況	健康人 2名 (泥酔者 名) 要保護者 名 [乳幼児 名 高齢者 名 身体不自由者 名 病人 名]	避難上支障となった事項 <ul style="list-style-type: none"> ○無窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input checked="" type="checkbox"/> ((管理不良), 機能不良, 未設置) ○停電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input checked="" type="checkbox"/>
	<ul style="list-style-type: none"> ○4階・5階には夜間宿直がおらず(マネージャーが1名いたが就寝に利用していた)宿泊者に対する避難誘導は何らなされなかった。 ○火災発見の遅れ、急速な延焼拡大及び煙の上昇、自動火災報知設備のベル停止並びに非常放送の不明確等により、宿泊客が火災であることに気づいた時はすでに自力避難は非常に困難な状況であった。 ○地下1階の2名は階段より地上へ自力避難、1階の3名は出入口より自力避難、3階の交換手2名は縄梯子により地上へ避難、屋外階段より4階の2名、5階の6名が自力避難、4階の窓から3名飛降りた。(1名死亡) ○消防隊による救助は、三連梯子等により4階の20名、5階の17名を救助、5階から梯子自動車により1名救助、屋外階段より4階1名救出(死亡)5階より3名救助した。 	
IV 問題点・教訓等		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 夜間における防火管理体制の強化と避難誘導訓練を行う必要があり、客室等を有する階には、従業員が宿直し、有事の避難誘導について配慮する必要がある。 2. 自動火災報知設備の非火災報があったため、ベル停止されており、このための宿直者の火災確認が遅れている。非火災報の場合は、十分な点検及び措置を講じ、管理の適正を図る必要がある。 3. 屋外階段により自力避難した宿泊客の多数がホテル投宿時に屋外階段の位置等を確認した人々であったことから、ホテル側として宿泊客に対し、投宿時に避難施設等の位置を知らせ確認してもらうなど積極的に努める必要がある。 4. 4階への煙の大量流入は、4階中央階段の防火戸を開放していたためであり、また、1階防火区画のためのシャッターを開放していたため大宴会場へ延焼してしまった等防火区画に対する管理が不適切であった。 5. 客室への煙流入を防ぐため、出入口ドアに自動閉鎖装置を設ける必要がある。 6. 客室の窓は厚板ガラス3枚組であり、事故防止の観点からストッパーにより開口巾を11cmしか開かないようになっていた。このため宿泊者等は窓ガラスを破壊し、救助されたが、窓枠等に残ったガラス片等により受傷した者が多数発生した。 		



※エレベーターについては省略



(飛降り)

